

タチオランダゲンゲ

Trifolium hybridum

マメ科



タチオランダゲンゲ

名前の由来

タチ＝地面から茎が立ち上がる、オランダ＝外国から来た、の意。「ゲンゲ」とは同じマメ科のレンゲソウ（蓮華草）のこと。レンゲソウの中国名は“翹搖”で、これを音読みした。漢字名：立和蘭(オランダ)翹搖（紫雲英）

形態的特徴

高さ20～50cmになり、全草無毛。茎は地面から立ち上がる。葉は三つ葉状に3枚の小葉に分かれ、それぞれの小葉は長楕円形で細かい鋸歯がある。葉柄は下部では10～25cmであるが、茎上方では短く4cm程度になる。柄の基部には細長い托葉があり、茎を抱く。花は淡紅色～白色で、数十個の小花が集まって径2cm程の球状の花序になり、茎上部の葉腋からのびる4～10cmの花柄の先にひとかたまりずつつく。類似種と見分け方：シロツメクサ、アカツメクサ。

シロツメクサの花は白色で、全草に毛がないためタチオランダゲンゲとよく似ており区別は難しいが、シロツメクサは茎が地面を這い所々から根を出し、葉・花の柄は6～20cmで茎上下の区別なく一定していることが相違点となる。シロツメクサとタチオランダゲンゲはしばしば混生するため、見分けるには注意が必要。アカツメクサの花は紅紫色で、全草に毛があることがタチオランダゲンゲとの相違点。

生育環境・分布

草原や畑地、河川敷など。

分布：国外分布は、ヨーロッパ～西アジア（原産地）。その他の分布は不明。

国内分布は、北海道と本州で見られる。『原色日本帰化植物図鑑』には「ややまれ」と書いてあるが、実情は不明。

北海道内分布は、道内全域に見られる。

十勝地方では、草地や畑地、河川敷などに普通。シロツメクサ、ムラサキツメクサと混生していることも多い。

生活史

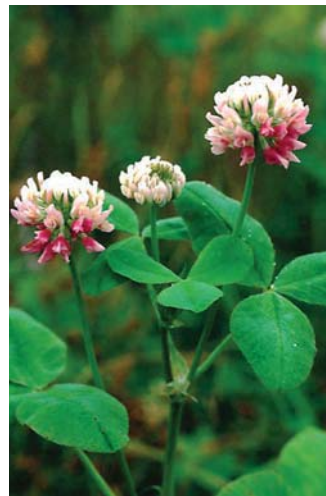
開花時期：6～8月。**開花までの年数：**不明。**寿命：**多年草。

他生物との関わり

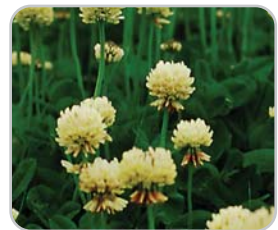
花の蜜を吸いに昆虫が訪れる。

興味深い話

■明治時代に牧草として輸入され、シロツメクサに混ざって野生化した。



タチオランダゲンゲ



シロツメクサ



アカツメクサ

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期			■									

参考文献

「日本野生植物館」奥田重俊編著 小学館 1997

「日本の野生植物-草本II-離弁花類」佐竹義輔・大井次三郎他3名 平凡社 1982

「原色日本帰化植物図鑑」長田武正 保育社 1976

「北海道帰化植物便覧」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2001

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「北海道の花」鮫島淳一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花」林弥栄監修 山と溪谷社

1989

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ